

# 第4学年 国語科学習指導案

令和6年 11月 日 ( ) 5校時

小学校 4年 組 名

指導者

- 1 単元名 オリジナルカレンダーを作ろう～自分に贈りたい12編の詩～(第3時/全7時 うち書写2時間)  
教材「自分だけの詩集を作ろう」(光村図書4年下)月の詩24編、ジュニアポエム詩集等約50冊

## 2 単元設定の理由

### ①教材観

本単元では、1つの詩を深く読み味わうのではなく、その経験を土台としながら、テーマを決めて複数の詩を集めたり並べたりする中で詩を味わう力を高めていく。詩に読まれている情景や詩人の思いを想像しながら、自身のテーマのもと、集めた詩を比較・関連付け、新しい意味を創出していく編集という作業の楽しさに気付かせたい。

詩は物語よりも短く、全体がとらえやすい。また、表現の効果を考えることで言葉に対する理解も深められる。アンソロジー(月の詩、オリジナルカレンダー)を作る過程で、多くの詩と出会うことにより、詩人たちの見方・考え方の多様さ、表現のおもしろさや特徴に気付くことができる。同時に、自分にとってよさを感じるものとそうでないものがあることにも気付くことができるであろう。詩を選んだり集めたりする中でこそ、見いだすことのできる自身の姿がある。また、それぞれが編集した詩集に触れる中で、詩のとらえ方や味わい方が友達によってちがうことの豊かさを実感するであろう。

本単元では、教材を3つのグループに分けて組織した。

第1は、共通教材である月の詩24編のカードである。四季や月の形、月の出る場所などに着目し、さまざまな情景が想像できるよう、また、さまざまな表現のおもしろさに出会うことができるように作成した。(教科書教材の3編の詩も含めている。)

第2は、教科書に取り上げられている3編の詩である。「月の詩」アンソロジーを編集する際のモデル学習の教材となる。したがって、1つ1つの詩を読み味わうのではなく、3つを選び並べた編集者のテーマや意図を考えさせることにより、アンソロジーを作るおもしろさに気付かせたい。

第3は、教室に配置した詩集(約50冊)である。まど・みちお、金子みすゞなど、親しみやすい詩集を選んだ。月の詩を選んだ経験をもとに、自分でテーマを決め、オリジナルカレンダーにまとめていくための教材である。

### ②児童観

これまで児童は、1つの詩に込められた深い意味を考えたり詩の表現のよさに気付いたりする中で、詩を味わう力を付けてきた。7月の「夏の楽しみ」では、「七夕」「花火」「阿波踊り」をテーマに読んだ俳句を10句ずつ紹介し、自分のお気に入りを見つける活動を行った。1つの事柄について、いろいろな感じ方や捉え方ができるおもしろさにふれることができた。10月の「ごんぎつね」では、心に響くことばベスト3を選ぶ際、「自分の心を見つめて」「物語の世界を味わって」「すてきな表現」などいくつかの観点を示し選ばせた。1つの観点のもと選ぶことにより、味わいが深まることや、友達と同じ観点でも選び方が異なることなどを実感したことが、詩を編集する本単元の素地となる。

本単元では複数の詩を読み比べたり、関連付けたりすることにより新しい意味が生まれてくるおもしろさを体験させたい。さらに、共通教材での「月の詩アンソロジー」の編集の経験を、オリジナルカレンダーづくりへと発展させることにより、自分の生活と詩が結びつく楽しさに気付かせたい。それぞれの月に、1つの詩を結びつけることにより、そのときの自分の姿に思いを馳せながら想像を巡らすことができたり、なんとなく過ごしている生活を詩が広げてくれることに気付いたりできる。このことが、言葉のもつよさや詩のよさに目を向けることにつながるであろう。

### ③指導観

以前、この単元を指導した際、児童は「花」「食べ物」など思い思いに詩を選ぶ活動はあったものの、テーマのもとに詩を集めたり編集したりする楽しさを味わわせることが十分にできなかったという反省が残った。複数の詩と出会

うよさ、そしてそれらを比較・関連付ける中で新しい意味を作り出していく楽しさを味わわせたい。さらに、詩が自分たちの生活、生き方に深く結び付いてくことに気付かせたいと考えた。

そこで、以下の5点について工夫改善を図った。

1点目は、詩を編集するおもしろさを十分に味わうことができるよう、編集活動を2段階で位置づけたことである。モデル学習の段階に当たる第一次では、共通教材月の詩24編を用いて、「月の詩アンソロジー」をつくる。そして、第一次で身に付けた詩を選んだり並べ替えたりする力を応用・発展しながら、発展段階の第二次では、教室に置かれた詩をもとに、自分に贈りたい詩を選びオリジナルカレンダーを編む。一度編集して完成ではなく、編集作業を繰り返す中で、編集のおもしろさを実感できるとともに、目的を基に必要な詩や情報を取り出し、比較・関連付けて意味を見いだしたり見直したりしながらアンソロジーを完成させていく一連の流れは、今求められている徳島県版読解力の育成にもつながるのではないかと考える。

2点目は、第一次での「月の詩アンソロジー」を編集する際、編集の手順やその効果を意識できるよう、スモールステップでの指導を位置づけることである。教科書教材を一つの「月の詩アンソロジー」の例と見立て、集めた詩をテーマをもとに関連付け選び出していくステップ、選んだ3～4編の詩を伝えたい事柄を明確にし、比較して並び替えるステップ分け、教科書と共通教材24編の詩を往還しながら指導を展開する。

3点目は、自身の生活や生き方と詩との関わりを見つめることができる言語活動を単元のゴールとして位置づけることである。オリジナルカレンダーづくりでは、それぞれの月の七曜表の横に選んだ詩とイラストをかく。それを12月分作成するが、2月ごとの1つの詩も可とする。2025年の自分の生活と詩を結びつけながら、生活の中に詩があるよさなども感受できるのではないだろうか。

4点目は、児童の多様な交流の場を位置づけることである。理由の一つは、児童は編集という作業をあまり経験したことがないだけに、戸惑いや不安が予想されるためである。小刻みに交流する場を設け、友達からさまざまなヒントが得られるようにし、安心して作業に取り組めるようにしたい。二つは、多様な見方や考え方に会わせるためである。交流する中で、さまざまな詩の選び方や並べ方のおもしろさに気付くことができる。意図的に交流の場を仕組む中で、同じ詩でも、組み合わせや並べ方によって、別の意味や可能性が生まれてくる編集のおもしろさを実感させたい。

5点目は、詩を読み込んだり、詩を集めたりするための時間を十分に確保することである。次の時間まで、数日から一週間程度に時間をおき、朝の読書活動やすきまの時間などで十分に読んだり考えたりできるようにした。

### 3 単元の目標

#### (1) 児童の活動目標

テーマをもとに詩を選んだり、比較・関連付け意味を見いだしたりしながら、オリジナルカレンダーを作ろう。

#### (2) 指導目標

○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができるようにする。(知(1)オ)

○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるようにする。(知(3)エ(イ))

○相手や目的を意識した表現になっているかを確認、作品を選んだり、書き直したりすることができるようにする。

(思B(1)エ)

○詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。

(思C(1)カ)

○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く詩に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(知(1)オ)</p> <p>漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書いている。(知(3)エ(イ))</p>	<p>「書くこと」において、相手や目的を意識した詩集になっているか確かめ、作品を選んだり、選び直したり並べ直したりしている。(思 B(1)エ)</p> <p>「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(思 C(1)カ)</p>	<p>伝えたいことを明確にし、粘り強く詩を選んだり並べたりし、今までの学習を生かして、詩集を作ろうとしている。</p>

#### 5 単元の指導・評価計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
一	1	月の詩 24 編を読み、それぞれの詩に読まれている情景を想像したり、表現の特徴を捉えたりする中で、「月の詩アンソロジー」をつくらうとする意欲を高める。	編集しやすいように 24 枚のカードにした詩を読んでいく。必要に応じ、語句の説明などをする。いろいろな月の捉え方があることを紹介し、「月の詩アンソロジー」を作ろうとする意欲を高める。	<p>言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(知(1)オ)</p> <p>【観察・発言】</p>
	2	教科書教材 3 編の詩がどのようなテーマで選ばれているのか話し合い、自分の伝えたいテーマのもと詩を 3 編か 4 編選ぶ。	みずかみかずよ、こやま峰子、堀田美幸が作った詩に共通するテーマを考えさせる。「満月ばかりを選ばなかったのはなぜか」「三日月、半月、満月としなかったのはなぜか」等問う中で、編集のおもしろさに気付くことができるようにする。選んだ詩をもとに一つの世界がえがかれるおもしろさや、「選ばない」ということの大切さに気付かせる。	<p>「書くこと」において、相手や目的を意識した詩集になっているか確かめ、作品を選んだり、並べ直したりしている。(思 B(1)エ)</p> <p>【作品・発言】</p>
	3 (本時)	教科書の 3 編の詩がどのような意図で並べられているのか話し合い、自分の選んだ詩を並び替える中で伝えたいことを明確にし、「月の詩アンソロジー」をつくる。	3 編の詩の 2 通りの順番を比べさせることで、編集のおもしろさに気付くことができるようにする。3 編の詩の並べ方の意図を推測させることで、順序の大切さに気付かせ、自分の選んだ詩に生かすことができるようにする。	<p>「読むこと」において、詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(思 C(1)カ)【作品・ワークシート】</p>
二	朝 読	オリジナルカレンダーを作るために、モデル学習での経験を生かし、様々なテーマを考えながら詩を集める。	<p>教室に手に取りやすい詩集を置き、自由に読めるようにするとともに、2 週間程度時間をおき、朝の読書時間なども活用し、十分に集められるようにする。</p> <p>気に入った詩は、タブレットに保存し、手軽に集められるようにする。その際大きなテーマから少しずつ絞って集めていくよう助言する。</p> <p>苦手意識のある児童に対して、個別に対話しながら、集めることができるよううながす。</p>	

4	自分の伝えたいテーマのもと、オリジナルカレンダーに載せる詩を選ぶ。	<p>タブレットに保存した詩を取捨選択し、伝えたいテーマを見いだすことができるようにする。</p> <p>選んだ詩は、6編から12編と個人差に応じ幅をもたせる。難しい児童に対しては、第一次で編集した「月の詩アンソロジー」をもとに作成するよう声がけをする。</p> <p>第一次で詩を選ぶ際に学習したことを想起させるとともに、直感的に決めず、いろいろな選び方を試みるよう助言する。</p>	<p>伝えたいことを明確にし、粘り強く詩を選んだり並べたりし、今までの学習を生かして、詩集を作ろうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)【観察・作品】</p> <p>「書くこと」において、相手や目的を意識した表現になっているか確かめ、作品を選んだり、書き直したりしている。(思 B (1) エ)【観察・作品】</p>
5	選んだ詩を並び替える中で伝えたいことを明確にし、オリジナルカレンダーに載せる順番(載せる月)を決める。	<p>自分が選んだ詩を比較したり関連付けたりする中で意味を見だし、選んだ詩を並び替える。それぞれの月の特徴や季節の移り変わりに縛られすぎないように伝える。</p> <p>第一次で詩を並べ直す際に学習したことを想起させるとともに、直感的に決めず、いろいろな並べ方を試みる中で、比較・関連付け意味を創り上げていくおもしろさに気付かせる。</p>	
6 7	<p>配置や字の大きさ、中心線などに留意し詩を台紙に清書する。</p> <p>(書写 2時間)</p>	<p>カレンダーに詩を書き写す中で、位置や大きさ、色などを工夫し、詩の表現を味わうことができるようにする。</p> <p>手書きのよさや楽しさに気付くことができるよう声をかける。</p> <p>できあがった作品を展示の形で交流することにより、一人一人の詩の味わい方に違いがあることに気付かせる。あと書きの形で単元の振り返りを書かせる。(モジュール学習)</p>	<p>漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書いている。(知(3)エ(1))【観察・作品・ワークシート】</p>

## 6 本時の学習

### (1) 目 標

#### ①児童の活動目標

選んだ詩の順序を並び替え「月の詩アンソロジー」を進化させよう。

#### ②指導目標

自分の伝えたい意味が読み手に伝わるよう、選んだ詩の順序を見直し、様々に並び替える中で、比較・関連付ける力や、詩を味わう力を高めることができるようにする。

### (2) 展 開

学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準【方法】
1 前時に選んだ「月の詩」アンソロジーの発表をする中で、本時の学習のめあてをつかむ。	意図的に発表させることにより、同じ詩がいろいろなテーマのもと選ばれたり、いろいろな順番に位置付けられていたりすることに気付かせ、詩の並べ方への課題意識を高める。	

	<p>選ぶ中で楽しかったことや力が付いたと思うことなどを発言させ、編集だからこそできるおもしろさに気付かせる。</p>	
<p>選んだ詩を並び替えて、「月の詩アンソロジー」を進化させよう。</p>		
<p>2 2種類のアンソロジー(教科書教材)を読み比べ、詩の並び方について気付いたことを話し合う。</p> <p>○太郎さんのアンソロジー案A</p> <p>「まんげつ」 みずかみかずよ</p> <p>「月」 こやま峰子</p> <p>「上弦の月」 堀田美幸</p> <p>○太郎さんのアンソロジー案B</p> <p>「上弦の月」 堀田美幸</p> <p>「月」 こやま峰子</p> <p>「まんげつ」 みずかみかずよ</p>	<p>同じテーマ「月の表情いろいろ(仮)」であるが、異なる順番で並べられた2つのアンソロジーを比べさせることにより、アンソロジーでは順序が大きな意味をもつことに気付かせる。編集者の目的によって、並べ方を工夫する大切さに気付かせる。</p> <p>太郎さんに助言する形でそれぞれの案のよさを発言させる中で、並べ方により受ける感じや浮かんでくるストーリーが異なることを実感できるようにする。</p> <p>並べ方から見いだした意味を言語化できるよう児童の発言をつないだり補ったりして、さまざまな言葉を板書する。これらが、サブテーマになることを伝える。</p> <p>新沢としひこ「今夜の月」の詩を紹介し、別の並べ方もあることを知らせることで、並び方に対する関心を高める。</p>	
<p>3 自分のアンソロジーの順番を考え、「マイ月の詩」アンソロジーをつくる。</p> <p>○様々に詩を並び替える中で、自分の思いにぴったりの並べ方を決める。</p> <p>○見いだした意味をもとにサブテーマを作成する。</p>	<p><b>タブレットで選んだ詩を比較したり関連付けたりする中で、意味を見いだしていくことができるよう、あえて並び替えてみるよう声をかける。</b></p> <p>自分なりのサブテーマを考えることにより、並び替える中で生まれた意味を意識できるようにする。</p> <p>自分の伝えたいことが読み手に伝わるよう、表現を工夫する。</p>	<p>伝えたい意味にぴったりの順序になっているか見直し、自分の詩集を並べ直している。(思B(1)エ)【作品・発言】</p>
<p>4 並び替えた「月の詩」アンソロジーを発表する。</p>	<p>サブテーマや詩の順序とともに、悩んだところや苦労したところ、工夫したところを発表させることにより、詩を編集する面白さや大切さに目が向けられることができるようにする。</p> <p>意図的に指名することにより、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気付くようにする。</p> <p>並び替える前の詩を教師が紹介する中で、編集作業が詩の味わいを深めていることに気付かせる。</p> <p>並び替える中で楽しかったことや力が付いたと思うことなどを発言させ、オリジナルカレンダーを作成する意欲を高める。</p>	<p>詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(思C(1)カ)【作品・ワークシート】</p>

### (3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・伝えたい意味が伝わる順序になっているかを見直し、さまざまな観点から自分の詩集を並べ直している。オリジナリティあふれる意味を見だし、サブタイトルに読み手を惹きつけるような表現の工夫がなされている。</li><li>・詩を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方の違いや、詩の編集作業の面白さに気付いている。</li></ul>
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・机間指導の際、並べ方により受ける感じや浮かんでくるストーリーについて対話する。必要に応じて教師が詩の並べ方を何通りか示し、選ばせる中で、児童の思いを引き出したり、新しい発想に気付いたりすることができるようにする。</li><li>・並べ方からどのような意味が生まれているのか言語化できるよう、いろんな文言を提示したりヒントカードを準備したりする。</li></ul>